

令和 8 年度以降

副食費助成事業見直しについて請願

請願第 15 号

(紹介議員)



田山 俊悦

兼平 孝信

鈴木 努

伊勢 玉穂

太田 隆司

佐藤 尚弘

縄手 豊子

【請願の趣旨】

盛岡市が現行事業の精査と見直しを行い、持続可能な財源確保を図る方針は理解しています。

しかし、総務省統計によれば、盛岡市では世帯年収 500 万円未満の世帯が全体の約 63% を占め、子育て世帯も多数含まれています。

昨今の物価高にもかかわらず、盛岡市では賃上げの恩恵が限定的であり、こうした世帯は非課税世帯ほど手厚い補助を受けられず、子育てにかかる費用を自力で負担せざるを得ません。

一方、非課税世帯は収入が少なく、他の補助があるとはいえ、副食費補助がなくなると大きな負担となり、子育て継続に深刻な影響を及ぼします。

このように、副食費補助は中間層・低所得層の双方にとって数少ない支えであり、希望とも言える制度です。

多様なライフスタイルが認められる社会においても、子育てを決意した世帯の「責任」を盛岡市が共に担い、協力を継続していただくことを強く願います。

【請願の理由】

現在の盛岡市の施策からは、「市全体で子どもを育てる」という姿勢が感じられず、子育ては各家庭に丸投げされているように見受けられます。子育て世帯への補助や居心地の良さを理由に盛岡市に住む方もいる中で、補助金の見直しは市の魅力を損なう恐れがあります。

保育園・幼稚園の現場では、食育を重視し努力を重ねています。「もりおか食育月間」などの取り組みは、未就学児が集団生活の中で食の経験を広げる貴重な機会を提供してきました。

未就学児期は集団生活の中で初めて食することに挑戦し、苦手な食材を克服したり、家庭では口にできない食べ物も仲間といれば食べることができるようになるなど、子どもの成長にとって無くてはならない貴重な機会となっています。

副食費補助がなくなること、こうした機会が減少することは明らかです。

市内で保育園・幼稚園を運営している園長からも「補助金がなくなれば園で一部負担を検討するが、兄弟で通う家庭などでは退園に追い込まれる可能性がある」との声が上がっています。

特に、複数の子どもを育てる家庭にとって副食費の負担は大きく、補助金の存在は子育てを支える重要な施策となっています。

「盛岡市こども計画」においても「子育てのための経済的支援の充実」を掲げていることから、今回の副食費補助の廃止は計画に反するものであり、市が目指す「より優しく、より強い盛岡」の実現に逆行するものです。

さらに、今回の事業見直しに関しては本件以外も子育て世代には全く情報が届いておらず、そのことも問題と捉えています。

以上の理由から、幼稚園・保育園における副食費補助の見直しを廃止することをお願いいたします。

令和 7年 12月 9日

盛岡市議会議長

櫻 裕子 様

請 願 者

住 所： 盛岡市

いわて Umi のいえ

氏 名： 七本田 さりこ

安西 花奈